

## あとがき

本書には二〇〇〇年から二〇〇三年にかけて、長野県内で私が講演した中から、地域おこしに関係すると思われるものをまとめました。このため重なる内容もありますが、この点は御許容ください。

いずれの会場でも、聴衆の皆さんは真剣に耳を傾けてくれました。その熱意に負けないように、私も声をはり上げました。

今、日本もそしてその基盤にある地域も、非常に大きな転換期を迎えています。誰もが将来に漠然たる不安を抱いています。未来（将来）は今の延長線上に、そして今は過去の上に成り立っています。したがって、処方箋は過去から学ぶしかないはずで、だからこそ、私たちは過去を認識し、未来をつくっていかねばなりません。地域をおこす、地域を元気にするために、私たちはもう一度、周囲に目を配り、学ぶ材料を確認し、これを伝えていかねばなりません。

従来ものの考え方にとらわれることなく、私たちは私たち個人の生活を評価する物差しを持ちたいと思います。従来のようにアメリカやヨーロッパを先進国と考え、それに近づこうとする発想法はやめましょう。また、お金や物の豊かさをもって生活の豊かさの尺度とするけちな考えも捨てましょう。本当に大事なのはこれまで尺度の対象にされなかった、心の豊かさではないでしょうか。心の豊

かさは物質的な豊かさとはつながらないことが多いのです。私たちは自分たちが住んでいる地域があまりに当たり前すぎて、私たちにどれだけ多くの物を与えてくれているのか、私たちがそこにどれだけ寄りかかっているのか、忘れがちです。

私たちはない物、足りない物を数え上げるのは得意ですが、当たり前だと思っているものの優れているところを数え上げることは不得手です。テレビなどの主張には簡単に飛びつきますが、自分たちが全国に向けて主張することには控えめになります。大事なものは、現在、私たちの身のまわりにある物や友人、文化などすべてを再認識し、その上で自分、家族、地域を考えていくことでしょう。そのためには学ぶしかありません。

学ぶことは大変ですが、楽しいことです。私たち一人一人の個性が輝くことのできる未来をつくるために、私たちはもう一度しっかりと、郷土を学んでいきたいと思えます。

本書で取り上げた講演をさせていただいたのは以下の通りです。機会を与えてくれた皆様に、そして何よりも刺すような目つきと、緊張した面持ちで私のつたない主張を聞いてくれた皆様に、深く感謝します。

## 第一部 博物館・資料館と地域

### 小菅の歴史と文化

(二〇〇〇年三月二二日 飯山市公民館 主催／いいやま博物館友の会)

飯山市にふさわしい資料館とは

(二〇〇三年十一月一六日 飯山市公民館 主催／いいやま博物館友の会・飯山市教育委員会)

松本まるごと博物館と市民学芸員

(二〇〇三年一月二四日 松本市立博物館 「松本市博物館の日」記念講演会 主催／松本市立博物館)

## 第二部 各地の文化を活かす

真田氏の歴史を活かした街づくり

(二〇〇二年十一月一〇日 長野市松代文化ホール 真田サミット2002 in長野基調講演 主催／同

実行委員会)

今、牟礼の文化を考える

(二〇〇二年十一月三〇日 長野県下水内郡牟礼村文化ホール 主催／八十二文化財団)

高遠町——地域に根ざした生涯学習

(二〇〇二年二月一日 高遠町総合福祉センター 桜大学 主催／長野県上伊那郡高遠町)